

説明 :

この記事の説明 : この人類史上最も重大な戦いの一つは、アラビア半島の政治バランスを変えました。

より IslamReligion.com

掲載日時 06 Dec 2009 - 編集日時 21 Oct 2010

カテゴリ : [記事](#) > [預言者ムハンマド](#) > [彼の伝記](#)

バドルの戦い

ムスリムによるある遠征において、シリアへと向かっていたクライシュ族の隊商は彼らの襲撃を逃れ、ムスリムたちはその帰路において待ち構えていました。ムスリム偵察隊の一部がアブー スフヤーン (クライシュ族側の首領の一人) の率いる隊商を発見すると、彼らは急いで預言者にその規模を知らせに行きました。もしもこの隊商を捕らえることが出来たのであれば、それはムスリムたちに多大なる経済的利益をもたらし、マッカ社会全体への打撃を与えることが望めたのです。ムスリム偵察隊は、隊商がバドルの水場で停留することを突き止め、ムスリムたちは急襲の布陣を敷きました。

この知らせがマッカに向けて南下中だったアブー スフヤーンの耳に入ると、すぐさま彼はマッカへ敵に対抗するための軍勢の緊急出動を要請しました。そして隊商を失うことによる破滅的な結果を恐れた彼らは、可能な限りの兵力を集結させ、直ちに出兵させました。しかしマッカからの軍勢はバドルへの道中、アブー スフヤーンの隊商が海岸沿いの陸路へと変更したことにより、ムスリム勢の手を逃れることに成功したという知らせを受け取ります。それにも関わらず約1,000人のマッカ勢はムスリムへ対して教訓を与えるため、つまり今後の隊商への襲撃を思い留まらせるため、バドルへの進軍に固執しました。

ムスリム勢がマッカ勢の進軍を知った時、彼らは対抗手段として大胆な作戦がとられなければならないことを確信していました。もしもムスリムたちが彼らをバドルで迎え撃たなければ、マッカの民はあらゆる手段を尽くしてイスラームへの敵対行為を続け、いずれはマディーナへ侵攻し、家畜などの富を脅威に晒したでしょう。預言者 (彼に神の慈悲と祝福あれ) は顧問会議を開き、どのような行動をとるか教友たちと話し合いました。預言者はムスリムたちが同意しないことを望んではおらず、特に軍隊の大半を占め、自分たちの領土外では戦わないとしたアカバの誓いにおける誓約にも関わらず戦うことを辞さなかったマディーナの援助者たちを、無理に戦いに関与させたくはなかったのです。

そのような中マディーナの援助者の中の一人、サアド ブン ムアーズは預言者への忠誠とイスラームへの献身を再確認しました。以下は彼が語った言葉です :

“ 神の使徒よ ! 我々はあなたを信じ、あなたがもたらしたものを証言し、それが真実であるとはっきり宣言します。我々はあなたに確固とした服従と犠牲の誓約を結びます。我々は進んであなたに服従し、いかなる命令にも従います。 あなたを真実とともに遣わせた神に誓って。もしあなたが我々に海に沈めと命令されるのであれば、それに躊躇なく従い、我々の内一人も後には残らないでしょう。我々は敵との対峙に関して私怨を抱きません。我

々は戦闘経験が豊富であり、格闘にも定評があります。神が我々の手によって我々の勇敢さをあなたに示し、あなたを御満悦させることが出来ますように。神の御名において、どうぞ我々を戦場へとご先導下さい。”

援助者と移住者の双方により、このような極めて強い支持が預言者とイスラームに向けて示された後、300人余の軍勢によってバドルへの出陣が開始されました。彼らは僅か70頭のラクダと3頭の馬を有していただけに過ぎなかったため、それらに交代で乗らなければなりません。彼らは、歴史上アル＝ヤウム アル＝フルカーン（区別の日）として知られるようになる日へと向かっていました。それは光と闇、善と悪、公正と不正との区別を意味しています。

戦いの日に先立ち、預言者は一晩中礼拝と祈願で過ごしました。戦いはヒジュラ暦2年（西暦634年）、ラマダーン月17日に行なわれました。当時のアラブの慣習に従い、戦闘開始前は前哨戦として双方から一人ずつが選ばれ一騎打ちが行なわれました。そしてムスリム側は一騎打ちを全て制し、クライシュ族の重要人物が数名殺されました。クライシュ族は激昂し、ムスリムの全滅を誓って突撃しました。ムスリムたちは戦略的に有利な陣地を確保していたため、マッカ勢へ甚大な損害を与えることに成功しました。預言者はここまで彼の主に対し、全ての力を尽くしてかれの助けを懇願していました。彼は高く両手を掲げ、それによって外套が彼の肩から落ちる程でした。このときに彼は、神の助けを約束された啓示を受けたのです：

“ われは、次ぎ次ぎに来る一千の天使であなた方を助けるであろう。
”（聖クルアーン 8：9）

吉報を受けた預言者は、ムスリムへ攻勢に出よう命じました。クライシュ族の大軍はムスリムたちによる情熱、果敢さ、信仰深さに圧倒され、大損害を受けた後、逃げる他に道がありませんでした。戦地には破滅の待ち構えたマッカ勢が少数取り残されていました。その中にはイスラームの宿敵と言われたアブー ジャハルがいました。クライシュ族は敗北し、アブー ジャハルは処刑されました。神の約束は現実のものとなったのです：

“ やがてこれらの人々は敗れ去り、逃げ去るであろう。 ”（聖クルアーン 54：45）

人類史上、最も重要な戦いの一つとして挙げられるこの戦いにおいて、戦死者は双方の合計でも僅か約80名余りでした。

新たな支配者となったアブー スフヤーンを擁するマッカは、その結果に目もくらむばかりの衝撃を受けていました。彼はこのままでは終らせないことを誰よりも強く決心していました。一方、力関係に敏感なベドウィンの諸部族はこの戦いをきっかけにムスリム側へと傾斜していきました。成功は成功を呼び、イスラームは新たな改宗者たちをマディーナにおいて獲得していったのです。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/176>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.

